

湘南地区 防災まちづくりワークショップニュース 3

～柳島自治会館にて、防災まちづくりワークショップが実施されました～



防災まちづくりワークショップとは…

災害に強いまちづくりを進めていく上で重要なことは、市民と行政等が、それぞれの役割を担い、継続的に取組を進めていくことです。今回は湘南地区をモデル地区とし、市民と行政が共に協力して、地域から何ができるのかということを中心とした4回のワークショップ形式で話し合っていきます。第3回の平成26年1月19日(日)では、住民や中島中学校生徒会の皆様など31名の方にご参加いただきました。第3回のワークショップは、「防災まちづくりマップを作る」「未来の柳島について考える」を中心に行われました。

「地域の特徴と防災上の課題についての共有・まとめ」では、前回のまちあるきと話し合いを基に、各班の防災まちづくりマップにおける資源や課題についてご発表頂き、防災まちづくりの資源や課題について共有化しました。「未来の柳島について考える」では、まず、柳島地区の防災まちづくりに関わるできごとを、ご紹介させていただきました。それから各班で、「10年後の柳島はどんなまちになってほしいか」を話し合っていました。

最後には、東京大学 加藤先生より今回のまとめのご講評をいただきました。

ワークショップ参加者

(住民) 湘南地区住民の皆様 中島中学校生徒会

(有識者) 東京大学 生産技術研究所 加藤孝明准教授 小田切利栄特任研究員

(茅ヶ崎市役所職員)

1

当日の様子

(地域の特徴と防災上の課題についての共有)



<ワークショップで行うこと>

第1回(平成25年11月24日)
防災まちづくりについて知る

第2回(平成25年12月8日)
まちあるきで資源と課題を見つける

第3回(平成26年1月19日)
防災まちづくりマップを作る
未来の柳島について考える

第4回(平成26年2月23日)
地域で取り組みたいことを考える

■1月19日のワークショップで行われたこと■

地域の特徴と防災上の課題についての共有	(各班での話し合い、発表)
地域の特徴と防災上の課題のまとめ	東京大学 加藤准教授
未来の柳島のまちづくりを考えてみよう!	説明: 茅ヶ崎市 都市政策課 (各班での話し合い)
第3回のまとめ	東京大学 加藤准教授

発行: 茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

発行日: 平成26年2月

TEL 0467-82-1111 (内線: 2504)

FAX 0467-57-8377

地域の特徴と防災上の課題についての共有

「地域の特徴と防災上の課題についての共有」では、前回のまちあるきと話し合いを基に、各班の防災まちづくりマップにおける資源や課題についてご発表頂き、防災まちづくりの資源や課題について共有化しました。皆様の話し合い結果を基に、「防災まちづくりマップ」を作成していきます。

	＜まちあるきで気づいたこと＞	＜課題・対応策・今後の取組＞
	1 班 ・柳島の中でも、古い一軒家が多く敷地が広い(300～400 坪のお屋敷等もある)地区だった。	▶敷地が広いので、その場で仮設住宅等を建てて、再建したりできるのではないかな。 ▶事前に地主の方と取り決めをして、避難所として使わせてもらえるようにしたい。
	・消火器や消火栓、防火井戸を見て回り、消火器が少ないと感じた。	▶防災リーダーの家や道端にも消火器を置いた方が良いと考えた。 ▶街頭消火器については、その場所にあることを目立たせる工夫が必要だと思った。 ▶各家庭に井戸があるので、井戸を活用出来るようにしていきたい。
	・危険なブロック塀が見受けられた。	▶(ブロック塀の生け垣化の)補助金等を活用して修繕できるようにしたい。家主がお年寄りなどの場合は代わりに申請する等の対策も考えていきたい。
 	2 班 ・消火栓、消火器の場所等を確認した。	▶消火栓のある場所がわかりにくいところがあるので目立つようにしていきたい。
	・道路は歩きやすかったが、電柱などが多い場所があった。	▶倒れてきたら危ないとの意見があった。
	・近隣の畑や駐車場等一時避難できる場所があった。	▶所有者に事前に承諾を取っておく必要があると考えている。 ▶一時避難場所は一時的に集まるところなのでいったんそこに集まってから、競技場予定地などを広域避難場所として皆で避難できるようにしてはどうか。
	3 班 ・松尾と浜見平に隣接した東側の地区を見て回り、空き地や畑、駐車場等多かった。	▶一方、家が密集しているところも多いところは課題であると感じた。
	・水害時の浸水被害の経験があるところも何ヶ所もあった。	▶平時は浸水するとは気づかないところであり、浸水時に写真等を撮っておいて、どのような被害があった箇所かを伝えるようにしてはどうか。
	・避難通路に関しては、全体的に道が狭いと感じた。	▶車での避難はしないように、呼びかけたい。
	・古いブロック塀等がある箇所もあった。	▶修繕をするのは難しいかもしれない。災害時の被害写真等を事前にご覧いただいて、避難する時にそのような危険な壁は避けるように伝える方法があるのではないかな。
	・飲食店、スーパー、病院等があった。	▶災害時の物資提供や応急活動等に関し、協定を結んではどうか。
	・火災延焼については、空き地もあるが古い建物も多い地区であった。	▶消火のための移動式ホースを置けるように、行政と自治会で予算等を工面したり、消火のための体制作りをしていきたい。
	・資機材の問題については、発電機の燃料の問題等がある。	▶まちぢから協議会としては、地区の防災マニュアルを作り、近隣自治会との合同訓練をしたり、防災備品の共有化をして、資機材を被災時に融通しあえるようにしたい。 ▶3 班は、柳島以外の自治会で構成されているので、今回の話し合いを各自治会に持ち帰って、活動して行けると良い。

<まちあるきで気づいたこと>	<課題・対応策・今後の取組>
4 班 ・消火器のボックスが劣化している箇所が見受けられた。 ・古い民家が数軒あった。 ・西浜高校が避難所だが、134 号を通ると 12～15 分かかる。 ・通学路にブロック塀が 2 ヶ所あった。	▶消火器のボックスを目立たせる等の対策をとった方が良い。 ▶行政と協力して竹藪等をきれいにしてもらった。 ▶(民家の敷地を利用した)仮避難通路を通して時間短縮を図りたい。 ▶しおさい広場や柳島記念館が近い人は、その屋上に避難した方が良いのではないかという意見が出た。 ▶修繕を進めるには、家主さんとの交渉が必要である。
5 班 ・海拔表示や、いつとき避難連絡所、消火器等を見つけた。 ・行き止まりが多かったり、ブロック塀で囲まれている場所等があり、危ないと思った。 ・道が狭い所に限って車の通りが多かったり、家が密集していてせまい道が多かった。	▶地域全体で考えると、消火器等の数が少ないと感じた。 ▶消火器や消火栓の色が薄く目立たないものが多かった。 ▶一方、道が広くて柳小等に避難する時に使える道や車いすの人でも通りやすい緩やかな道もあった。 ▶全体的に見ると地域の防災に対する意識は高く良いと思ったが、改善していくべきところも多くあると感じた。

地域の特徴と防災上の課題についてのまとめ

「地域の特徴と防災上の課題についての共有」の発表で皆様から挙げられた内容を基に、加藤先生が会場にて、それぞれの防災まちづくりの考え方のまとめを作成していただきました。

街の資源	街の防災上の課題
<u>空地、畑、敷地、邸宅・・・</u> <1 班>敷地が広い一軒家 <2 班>畑、駐車場等一時避難できる場所 <3 班>空き地や駐車場 <u>井戸、消火器・・・</u> <1 班>各家庭に井戸がある <3 班>移動式ホースの設置 <u>人、・・・</u> <3 班>まちちから協議会 <4 班>行政との協力、民地を利用した仮避難路	<u>危なそうな場所がある（ブロック塀）</u> <1 班、4 班、5 班>危険なブロック塀がある <2 班>電柱などが倒れたら危険 <3 班>家が密集した場所、浸水被害のある箇所、古い建物、ブロック塀 <u>消火力が足りない</u> <1 班、5 班>消火器が少ない <2 班、4 班>消火器が目立たない <u>避難、狭い道</u> <3 班>道が狭く、車の避難は難しい <5 班>道のせまい所に限って、車通りが多い

3

1.明日に備える取り組み

被害を減らす

対応力を高める：消す，逃げる，快適に被災生活する

対応力を高めるための地域の体制づくり，

空間の使い方を工夫する．(スーパー，病院，飲食店，空地)

空間・設備を拡充

街のことを良く知る：災害に強い人づくり，コミュニティづくり

2．長期的に目指す取り組み

3.備えを持続させる工夫

地震、火災、水害

街の変化

未来の柳島について話し合ってみよう！

10年後の柳島がどんなまちになってほしいか、そのために、どんなことに取り組んでいきたいかを話し合い、模造紙に書き出していました。そして、各班から簡単に話し合い結果を紹介してもらいました。

ワークショップのご感想 結果

第3回ワークショップの際に、ご記入いただきましたご感想結果の一部をご紹介します。貴重なご意見をありがとうございました。(ご回答：32人(市職員含む))

説明のわかりやすさは...？

選択肢	回答者数
わかりやすい	28
どちらとも言えない	4
わかりにくい	0

どちらとも言えない, 4

わかりやすい, 28

発表の時間は...？

選択肢	回答者数
短い	0
ちょうどよい	32
長い	0

長い, 0

短い, 0

ちょうどよい, 32

本日のご感想は...？

選択肢	回答者数
楽しかった	31
どちらとも言えない	1
つまらなかった	0

どちらとも言えない, 1

楽しかった, 31

- いろいろな意見が出てみんな真剣に柳島のことを考えていていい街だと思いました。他の人にも教えてあげたいと思いました。
- 柳島の住人よりも、他自治会の人から良い意見が出ていたのに感謝。
- 各班がまちあるきをして気付いた点を発表され、同じような所を見ているなど感じました。消火栓や消火器の設置場所など、普段では気にしない所を見ていることに興味しました。
- 後半で話し合った10年後の柳島について、第4回でもしっかり話ししていきたいです。
- 1)問題点を明確にした上で市と自治会が協力して防災マップを作成し全自治会員に配布する必要性を感じた。
2)その上で今後の対策に関し市と自治会が協力して具体的な案を作成し、その実現化に努力することが大切であると感じた。
- ・地区を詳細に見ることにより、色々なことが判った。
・他の地区(自治会)への落とし込みを検討してもらいたい。
- 柳島以外(連合会、中学生)の考え方、意見が大変参考になった。今後の柳島自主防災の取り組みに活用させていただきたい。
- 今日は今までやったまとめのようになっていて、そして少し今からできること、やらなければならないことが見えてきたような気がしました。次回が楽しみです。
- 平成32年は人口のピークとなると想定されているというのに対して、またその時にはふたたび今回のワークショップを行って多くの人に防災に関して関心をもってもらった方が良かった。たくさんの取り組みたいことの意見が出てきたので、それを実際に3年後、また10年後には実現できていたら良いと思った。地域とのかかわりを深くするために、まずは近所の人などのあいさつからスタートさせたいと思った。
- 防災対策としていろいろな意見があがり、未来の柳島のことについて話し合いすばらしい意見がたくさんでたのでとても良く、本当に実現してくれれば良いと思います。
- 未来への意識を高めるよい機会だと思います。この意識が地域住民にどう浸透させるかが問われている。
- 生徒たちが少しずつ意見を出し、活発になっていきよかったです。地域の方々とアイデアが一致しすごいと思いました。
- 今回は、3年以内、10年以内というとても遠い未来のことまで考えるのは初めてで、考えて、アイデアを出すのが大変だったけれど、「こうなっていたら良いな」というのが皆それぞれ違く、色々な意見が聞けて良かったです。
- 未来の柳島について、今から何を取り組めばいいのか、これからどうしていけば良いのかがよくわかった。まだまだ地域としての防災ができると思うので、この話し合いのことをもとにこれからの防災づくりに役立てたい。